

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690800012		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント コミュニティ		
事業所名	東山ケアセンターそよ風(桜)		
所在地	京都市東山区本町18丁目386-1		
自己評価作成日	令和2年10月12日	評価結果市町村受理日	令和3年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2690800012-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和2年11月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍の中何ができるのか、日々考え皆様の生活のサポートをさせていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは利用者のしあわせを理念に謳い、職員は日々笑いの絶えないホーム作りに取り組んでいます。職員の関係性も良好で活発に意見を出しやすい環境にあり、コロナ禍においても会議や日々の中で話し合いハロウィンパーティーの開催や特別なおやつ作り、ホーム内の壁に飾る作品作り、カラオケや漢字を使用した脳トレなどを企画し利用者が楽しみを持って過ごせるよう支援しています。コロナ禍でも室内で個別配膳等感染症対策をしたうえで鍋物をしたり寿司やカツ丼、弁当などの出前を取り食事を楽しんでいます。現在は書面報告ですが以前は運営推進会議に多くの家族の参加を得て開催し要望を受け利用者の日々の暮らしの様子を更に詳しく記載し送付したり、コロナ禍前は家族と一緒に食事に出かけるなど家族との良好な関係を築くよう努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時には会社理念を唱和し、共有と確認をしている。理念になっている「しあわせ」にむけ利用者様を地域社会の一員として孤立しないで生活して頂けるようスタッフ一同努めている。	法人理念をホームの理念としフロアー入口に掲示すると共に朝礼時に唱和し新任入職時のオリエンテーション時にも説明し職員への意識付けを行っています。フロアー会議等で随時振り返りを行い、利用者の「しあわせ」に繋がるよう様々な事に取り組みながら支援を行い理念の実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入して地域との繋がりを持っている。地藏盆・敬老会・運動会など地域行事にも参加している。地域の古紙回収にも協力している。地域の方々とは出会った際には挨拶を交わしている。	コロナ禍以前は回覧板や運営推進会議で地域の情報を得て敬老会や運動会等様々な地域行事に参加したり、ホームで行う秋祭りには地域の方の参加を得て開催し、音楽療法や傾聴ボランティア等の来訪やデイサービスに訪問した小中学生の余興や会話等楽しんでいました。現在は交流が難しい状況ですが、今後ドライブ等で外出し気分転換を図っていきたくと考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事へ積極的に参加している。また事業所主催の秋祭りには地域の方々にも参加して頂き交流を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議で出されたご意見を職員一同把握・共有してサービスの質の向上に努めている。	会議は多数の家族や社会福祉協議会長、地域包括支援センター職員等の参加を得て2カ月に1回開催し利用者の状況や行事、事故報告を行い意見交換をしています。利用者の状況を更に詳しく知りたいという意見を受け入浴状況等を加えて日々の様子についても詳しく記載し希望する家族に毎月報告を行うなど、得られた意見を運営等に反映させています。コロナ禍では報告を書送付にて書面開催としています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の報告書を毎回区役所に届けている	運営推進会議の報告書を届けたり、書類の手続きや制度上でわからないことを聞きアドバイスをしています。行政の参加する事業所連絡会にセンター長が参加し伝達を受けています。アンケート調査の協力をしたり感染症等の注意喚起が届いた場合は職員に周知し、コロナ禍においては消毒液やマスクが届いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設置し、会議の中で勉強会を実施して、理解を深めている。センターの前面道路は交通量が多く、危険が多いため玄関の施錠は実施しているが、外気浴や散歩等を通して、拘束感のないよう努めている。	併設の事業所と合同で身体拘束や虐待についての勉強会を月に1回行い、身体拘束委員会からの報告もしています。不適切な言葉かけがあった場合は管理者が注意をしたりセンター長と一緒に三者面談をすることもあります。外に出たいという希望があれば散歩に出たり玄関先で外気浴等で気分転換を図るなど閉塞感のない支援に努めています。	

東山ケアセンターそよ風(桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議の中で勉強会を実施している。入浴時や更衣時に身体状態の確認を行い、日々注意している。声掛け等についても職員同士注意し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議の際に勉強会を実施して理解を深めるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には原則2名体制で対応し、十分な時間を取って説明し、質問等に答えている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族交流会、ご面会時に家族からのご意見・ご要望をお聞きする機会をもち、サービス向上に努めている。また玄関先にはご意見箱を設置している。	利用者からは買い物や食べたいものについての要望があり職員や家族が購入したり献立の中に反映させる等対応しています。家族の意見は年1回のアンケートや家族会、面会時、電話等で聞いており、面会時には日々の様子を伝え言いやすい雰囲気作りに努めています。下肢筋力を維持してほしいという要望を受け可能な利用者には声をかけ廊下を多めに歩く等、得られた意見をサービス等に反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・グループホーム会議時には、センター長や管理者と直接話ができるような雰囲気づくりを心掛けている。定期的な面談も行っている。日常的にコミュニケーションを取るよう努めているが、まだ十分とはいえない。	職員とは常にコミュニケーションをとるよう心がけており、全体会議やグループホーム会議、申し送り時等に意見や提案を聞いています。会議に参加できない職員からは事前に意見を聞いておくこともあります。車いすを必要とする利用者が増え、職員からの意見で車いすを購入する等物品購入に繋がっています。年に1回の定期的な面談時や随時の面談でも意見や要望を聞くようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考査を行い評価している。スタッフにゆとりがなく、日々の業務に追われているのが現状である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に対してはトレーナー制度を設けている。研修への参加や毎月勉強会を行い、サービスの向上に努めている。		

東山ケアセンターそよ風(桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を通じて同業者との交流を図り、系列の他センターへ行く機会などを通して、サービス向上を図って、切磋琢磨している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前の個別面談にて、可能な限りご本人の意向をお伺いしている。ご入居後も常にご利用様の不安を傾聴し、安心して頂けるよう、信頼関係の構築にも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前の個別面談にて、ご家族様よりお困り事・ご不安な事等お聞きし対応している。ご入居後も面会時に日常の様子を報告し、ご要望もお伺いし、良好な関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様や、ご家族様の意向を把握し、できる限りご協力できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事等お手伝いして下さっている。ともに協力しながら、暮らしをともにする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	イベントなどにご家族様をお誘いし、ご本人様とご家族様の絆を大切にしている。ご利用者様の情報を共有し、常にご利用者様を共に支えあう関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様・ご友人・ご親類の方も御面会に駆られている。ご家族様と自宅に帰られたり、お墓参りや外食にも出かけられている。	友人や親戚等の面会時には居室に案内し、意思疎通の難しい利用者については職員が仲を取り持つこともあります。利用者の馴染みの人や場所については申し送りノートにて共有しており、職員と馴染みの美容室に行ったり地域からの利用者にとっては出かけた先が懐かしい場所だったりすることもあります。家族と馴染みの場所に外食に出かけたり、自宅や墓参り等に出かける際は身支度等の支援をしています。友人からの電話の取次ぎをしたり年賀状を出す際ははがきの準備や投函の支援をするなど今までの関係が継続するよう努めています。	

東山ケアセンターそよ風(桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席配置等配慮し、日常生活の中で自然と共に関わり支えあっていただけている。孤立しないよう配慮もしている。ご利用者様同士でレクリエーションをお誘いしたり、共同作業も充実している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話でお話する機会や、ご近所の方は、施設近くでお話する機会がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人のご意向を伺い把握し、意思決定を尊重して頂けるように努めている。ご希望も取り入れるように努めている。	入居時の面談で本人や家族から意向や生活歴、趣味、特技等を聞き以前のケアマネジャーからの情報も得てアセスメント表に記載し意向の把握に努めています。入居後は家族に聞いたり日々の会話や表情、様子等から汲み取り、職員が気づいたこと等を介護記録や申し送りノートに記載しカンファレンスで本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やご本人の会話の中から、生活歴や生活環境の把握に努めている。センター方式シートも活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い、体調の把握に努めている。申し送りノートや介護支援記録を活用し、情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス・アセスメントは定期的を実施している。モニタリングは毎月実施。ご本人様やご家族様のご希望もお聞きし、ケアプランを作成している。	本人や家族の意向の基作成した介護計画は初回は3か月で見直し、特に変化がなければ6か月で見直しを行っています。申し送りノート等も活用し毎月モニタリングを行い見直しの際は再アセスメントとサービス担当者会議を開催し事前に聞いた本人や家族の意向、看護師や医師の意見を必要に応じて介護計画に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート等を活用し、職員間での情報共有を図り、ケアプラン見直し繋げている。		

東山ケアセンターそよ風(桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良時の病院付添等。その時のニーズに応じて支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に参加し、地域交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に内科や歯科の往診を受けられている。訪問看護も週一回来て頂いている。医師や看護師相談することで、関係が築けている。	入居時に今までのかかりつけ医が継続できることを説明し継続している方もおり週1回の往診があります。協力医による月に2回の往診を受け、24時間連絡可能な体制があり、体調不良時は訪問看護師から協力医に連絡し往診や受診などの指示を仰いでいます。専門医については職員が対応しており時には家族が対応することもあり、受診結果については口頭にて共有しています。月4回の歯科往診や希望により訪問マッサージも受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中に体調の変化等あれば、DSの看護師にみて頂いたり指示を仰いだり連携を図っている。訪問看護師にも相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には個人ファイルを持参し、薬の説明書や診療情報提供書等確認して頂いている。また電話や面談にて、情報交換にも努めている。往診時等に相談や助言も頂き、関係作りにも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じて、個別に対応している。往診時に、ご家族様と医師がお話しされる場を持って頂いている。ご家族様のご意向により、他施設への入所申し込み等も行っている。	入居時に看取り支援を基に説明を行い医療行為が発生した場合は支援が難しいことや家族の協力等についても依頼し同意を得ています。今までに看取り支援を行ったことはありませんが重度化した場合は医師から家族に状態を伝え職員と一緒に話し合い、看取り支援の方針を決める体制を作っています。年1回看取り支援の勉強会を行い学んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルや緊急連絡網を提示している。		

東山ケアセンターそよ風(桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防避難訓練を実施。利用者様も参加されている。全職員は参加できていないが、訓練記録にて伝達勉強会を行っている。災害時には地域の方にもご協力いただけるよう自治会にて話の場を持っている。	年2回昼夜想定で行う消防訓練は、内1回は独自で行い1回は併設事業所と合同で消防署立ち合いの下、通報や初期消火、避難誘導の訓練を行っています。地域にも案内し参加を得ていますが、コロナ禍では参加はありません。運営推進会議にて案内や報告を行っています。飲料水やご飯等の備蓄の他、ランタンや懐中電灯も準備しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けには配慮している。各々で理解しているが、少し強い口調等不適切な言葉掛けをしてしまう時がある。	年1回、併設事業所と合同の接遇についての研修に参加し、気になる行動があった場合には独自の勉強会も行っていきます。丁寧語と呼称は苗字を基本とし声のトーンにも気をつけながら、馴れ馴れしくならないように心がけています。年に1、2回、接遇のチェックシートを活用し話し合い振り返りを行っています。不適切な言葉かけがあった場合は管理者が注意をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人へ、ご希望や思いをお伺いし、自己決定して頂けるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のペースを大切にし、ご本人のご希望に沿った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で着る服を選ばれたり、お出かけ前にはオシャレにアクセサリーを身につけたり、化粧をされる方もいる。月一回の訪問理美容も、ご希望があれば利用されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き・下膳・食器拭き等、お一人お一人ができることをお手伝いして下さっている。職員はご利用者様と一緒に食事をし、時に会話しながら楽しい食事の場になるよう努めている。	食事は法人の基本献立を基に利用者の好みや行事食、旬等に配慮しながらホームでアレンジし作っています。利用者にもテーブル拭きや食器拭き等できることに携わってもらい、職員と談笑しながら同じ食卓を囲み食事を摂っています。コロナ禍でも室内で個別配膳等感染症対策をしたうえで寿司やかつ丼、弁当等をとったり鍋物等のイベント食の他、ホットケーキやケーキ、フルーチェ等の手作りおやつも楽しんでいきます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量をチェック表に記入し、水分量の少ない方など配慮している。野菜を多く使用しよう心掛け、健康管理にも繋げられるよう努めている。		

東山ケアセンターそよ風(桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。お声かけや一部介助など、お一人お一人にあった支援を行っている。義歯は夜間に、義歯洗浄剤を使用し、清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を常に心掛け、チェック表を活用し、トイレ誘導の必要な方には、定期的な声掛け誘導を行っている。	日中は全員トイレでの排泄を基本としており、排泄チェック表を基にパターンを把握し仕草等見逃さず定期や随時で声かけや誘導を行っています。夜間は安眠を優先しおむつ交換する方やポータブルトイレを使用する方もおり、支援方法や排泄用品についても随時検討し、支援することで失敗が減った方もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やバナナ等を用いた飲み物をお出しし、便秘予防に努めている。食事野菜多めになるよう努めている。身体を動かす機会を持って頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前・午後に入浴して頂けるよう努め、ご本人のご希望やタイミングに沿えるよう配慮しているが、職員の都合になることがある。	入浴は週に3回日中に支援しており、希望により増やすことも可能です。温湯についても希望を聞き、柚子や菖蒲等の季節湯を楽しんでもらったり、好みのシャンプーやリンス、石鹸等持参している方もいます。拒否のある場合は様々な話をして気分転換を図り、様子を観ながら声をかけたり日時や職員を変更し無理のないよう入浴支援に繋がっています。職員と会話をしながらゆっくりと入浴を楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に応じて昼寝をされたり、体調に応じて居室で休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は個人ファイルにて確認。薬変更時はご家族様に報告、申し送りノートを活用し情報を共有している。服薬時は服薬表をチェック、職員間でもダブルチェックし確認している。服薬後の症状の変化も確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵や生け花等取り組んで頂く機械を持っている。お誕生日会や季節の行事も実施し楽しみのある生活を送って頂けるよう努めている。家事もお手伝いして下さり、役割を持って頂けるよう支援している。		

東山ケアセンターそよ風(桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	お花見、外食レク、外気浴等実施している。近所の喫茶店へも出かけている。ご家族様と食事に行かれたり、お墓参りに行かれることもある。	以前は月に1回は散歩や買い物に出かけるようにしており、地域行事に参加したり初詣や花見、紅葉狩りなど季節毎の外出もあり、紅葉狩りの際は家族にも声をかけ一緒に会食をする等楽しんでいました。コロナ禍においては外出自粛によりゴミ出しや玄関先のベンチでの外気浴等、少しでも外気に触れる機会を作るよう工夫しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はセンターで管理している。外食レクやスーパーで買い物した時等に、代金を支払って頂く機会を持っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話ご希望時は、おかけしている・手紙が届いた際は、ご本人様にお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	障子やカーテンで光を調整し、室温にも配慮している。トイレには分かりやすいよう目印を付けている。イベント時には飾り付けも行っている。廊下には作品展示や行事の写真等を掲載している。	共有空間は生花や習字、塗り絵、行事の写真、利用者と一緒に作った季節ごとの作品、雛人形や七夕飾り、クリスマスツリー等を飾り季節を味わってもらっています。ソファを配置し好きな場所で過ごせるよう配慮したり、可能な利用者と一緒に毎日換気や掃除を行い清潔保持に努め、利用者の体感にも留意しながら温湿度管理を行い快適な共有空間を作っています。またテーブル席は利用者の相性も考慮し変更することもあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間でお1人になれる空間はないが、気の合う方と座って頂けるよう座席を配慮している。ソファもあり、好きな場所で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、写真等飾られたり、なじみの家具をお持ちになられている方もいる。TVも置かれ。好きな番組を見て過ごされている。	入居時に馴染みのテーブルや椅子、テレビ、鏡等を持参し家族が配置し、入居後動線に考慮しながら家族と相談し変更することもあります。仏壇や遺影、裁縫道具、編み物道具、家族の写真、アルバム、本等大切な物や趣味の物をそばに置きその人らしい居室作りに努めています。また日記を毎日付けている方もおり今までの生活習慣にも配慮しています。毎日換気や掃除を行い、希望により布団を敷いて休むことも可能です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内バリアフリーであり、杖や車いすを使用し、各自の身体機能を活かし、過ごされている。居室入口には、各自の名前を確認して頂けるよう担っている。		